

成人看護学（講義 6 単位・実習 4 単位）（専門分野）

1. 成人看護学の考え方

我が国では、医療の高度化、保健・福祉の充実により平均寿命は延伸し、高齢化が進展している。今後生活習慣病や慢性疾患、認知症を抱える高齢者が増加し、医療・介護の需要が増大する状況が懸念される。一方で出生数減少により少子化が進むとともに生産年齢人口の減少が生じ、国の経済や財政に与える影響は大きい。平均寿命の延伸は、疾病や障害とともに生きる期間の延長を示す。疾病や障害と付き合いながら、自分らしい自立した生活を送り、最期まで尊厳を持って人生を全うすることが重要となる。このような状況に対し、看護は適切な保健・医療・福祉が提供されるとともに、「生活の質」が高まるような関わりが求められる。

成人は身体的に発達・成熟し、精神社会的にも他者や社会との相互作用を通して自我同一性を獲得し、家族を養い、社会のなかで役割を果たす存在である。身体的・精神的・社会的に充実した時期である一方で、複雑な社会状況の変化に伴い過度に外部からの刺激を受けると、内部環境にも影響をもたらし、様々な健康障害を起こす可能性がある。また、成人の生活習慣は他者や社会環境から影響を受け、揺るぎないものとなる。よりよい生活習慣は健康的な身体や人格をつくり出すが、不規則で偏った生活習慣は病気を生み出す。長年の経験の積み重ねより生活習慣となったものを変更することは容易ではない。動機付けや行動変容によって健康生活の意義を見出し生活習慣を変更することや、健康障害が生じた場合に回復のための行動が起こせるよう成人を対象とした学習を行っていく必要がある。

成人期においては、今後迎える高齢社会に適応できるよう健康寿命の延伸に向けた関わりが重要であり、健康の維持・増進、疾病の重症化や事故の予防が必要となる。健康を保つための知識、行動や習慣を身につけ、健康課題に適切に対処できるセルフケア能力を高めるよう支援する。同時に急性期医療の場面では、患者の生命を救い、回復期・慢性期を経て安心して生活できる状態までの過程を教授する。また、治療効果が期待できず終末期となった患者に対し、その人が穏やかな最期を迎えられるよう苦痛や不安の軽減、家族に対する看護を学ぶ。

2. 目的

成人期の特徴をふまえ、健康の保持増進の為のセルフケア能力の増強をはかる。また、健康問題をもつ対象については、回復を促しそれぞれの健康段階に応じた、看護の役割と機能について理解を深める。また、人生の最期のときを支える為の看護の目的、役割を学ぶ。

3. 目標

- 1) 成人期の対象を理解する。
- 2) 成人期における健康問題の現状とその原因を考え、看護の果たす役割を理解する。
- 3) 成人期の健康障害をもつ対象のおかれた状況（経過）に応じた看護が展開できる能力を身に付ける。
- 4) 成人期の対象と家族に対する看護を考え実施する。

4. 科目

| | |
|--------------|--------------|
| 成人看護概論 | 経過別看護実践のプロセス |
| 経過別看護 | 周術期看護 |
| 機能障害のある患者の看護 | がん看護 |

専門分野・成人看護学 授業計画

| | | | |
|---|---|------------|---|
| 授業科目及び時間数 | 成人看護概論 1単位 30時間 | | |
| 開講時期 | 1年次 後期 | | |
| 担当教員 | 黒川みゆき | 実務経験 | 有 |
| <p><科目のねらい> 成人期にある対象の特徴と成人期の生活の中で特徴的な健康問題について理解し、健康の保持増進に向けた看護のあり方について理解できるようになることがねらいとする。</p> <p><到達目標> 1. ライフサイクルからみた成人期の位置づけと意義、成人各期の成長・発達・健康障害について理解できる。 2. 成人期の健康の特徴と健康の保持・疾病予防について理解できる。 3. 成人看護学実習で活用する理論・モデルを学び、健康教育の方法について理解できる。</p> | | | |
| 授業計画・内容・担当教員 | | | |
| 1回目 | 1. 成人看護学ガイダンス 2. 成人と生活 | 講義 | |
| 2回目 | 1) 対象の理解 2) 対象の生活 | | |
| 3回目 | 1. 生活と健康 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム | 講義 | |
| 4回目 | 1. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 3) チームアプローチ | 講義 | |
| 5回目 | 4) 看護におけるマネジメント 5) 看護実践における倫理的判断 6) 家族支援 | | |
| 6回目 | 1. ヘルスプロモーションと看護 2. 健康を脅かす要因と看護 | 講義 | |
| 7回目 | 1. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2. 障害がある人の生活とリハビリテーション | 講義 | |
| 8回目 | 1. 慢性病との共存を支える看護 2. 人生の最期の時を支える看護 | 講義 | |
| 9回目 | 1. 学習者である患者への看護技術 1) エンパワメント-エデュケーション | 講義・グループワーク | |
| 10回目 | 2) セルフマネジメントを推進する看護技術 | | |
| 11回目 | 1. 健康指導 指導計画書の作成 | 講義・グループワーク | |
| 12回目 | 2. プレゼンテーション | | |
| 13回目 | 1. リフレクション | 講義・グループワーク | |
| 14回目 | | | |
| 15回目 | 筆記試験 | | |
| 評価方法 | 筆記試験 50%・ポートフォリオによるルーブリック評価 50% | | |
| 受講生に対するメッセージ | 成人看護学実習の基礎となる学習内容であるため、一つ一つの演習を確実に学習し実習の足掛かりとしてほしい。 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 | | |
| 参考書 | 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第2版 日総研 国民衛生の動向 2022/2023 | | |

専門分野・成人看護学 授業計画

| | | | |
|--|--|----------------------|---|
| 授業科目及び時間数 | 経過別看護 1単位 30時間 | | |
| 開講時期 | 2年次 前期 | | |
| 担当教員 | 黒川みゆき・萱場健雄 横山礼・渡邊美佐子 | 実務経験 | 有 |
| <p><科目のねらい> 本授業では、経過別看護として急性期・周術期・リハビリテーション期・慢性期・終末期における患者や看護の特性、必要なケアについて学ぶことをねらいとする。</p> <p><到達目標> 1. 患者を健康段階の変化の過程にある存在として捉え、各経過における看護の特徴について理解できる。</p> | | | |
| 授業計画・内容・担当教員 | | | |
| 1回目 | 1. 急性期にある患者の看護 1) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 | 講義・グループワーク (萱場) | |
| 2回目 | 2) 健康生活の急激な破綻 3) 急性期にある人の看護 | | |
| 3回目 | 1. 救急看護 1) 救急看護の概念 2) 救急看護の対象の理解 3) 救急看護体制と看護の展開 4) 救急患者の観察とアセスメント | 講義 (萱場) | |
| 4回目 | 1. 集中治療を受ける患者の看護 1) 集中治療・看護の概念と役割 2) 集中治療室 3) 集中治療における看護の実際 | 講義 (萱場) | |
| 5回目 | 1. 周術期にある患者の看護 1) 周術期看護の概論 | 講義 (横山) | |
| 6回目 | 2) 手術全患者の看護 3) 手術中患者の看護 | | |
| 7回目 | 1. 周術期にある患者の看護 | 講義・グループワーク (萱場) | |
| 8回目 | 1) 手術後患者の看護 | | |
| 9回目 | 1. リハビリテーション看護 1) リハビリテーション看護概論 | 講義 (黒川) | |
| 10回目 | 2) リハビリテーション看護の定義と専門家 3) リハビリテーション看護の対象 4) リハビリテーション看護の方法 | | |
| 11回目 | 1. 慢性期にある患者の看護 1) 慢性病患者の理解 | 講義 (黒川) | |
| 12回目 | 2) 慢性病との共存を支える看護実践 | | |
| 13回目 | 1. 終末期にある患者の看護 1) 緩和ケアの現状と展望 | 講義 (渡邊) 緩和ケア認定看護師 | |
| 14回目 | 2) 緩和ケアにおけるチームアプローチ 3) 緩和ケアにおけるコミュニケーション 4) 緩和ケアにおける倫理的課題 5) 全人的ケアの実践 | | |
| 15回目 | 終了試験 | | |
| 評価方法 | 筆記試験 100% (横山 15% 渡邊 15% 萱場 40%・黒川 30%) | | |
| 受講生に対するメッセージ | この授業は、3年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるように、積極的に授業に取り組んで欲しい。 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学・臨床外科総論・リハビリテーション看護・緩和ケア 医学書院 | | |
| 参考書 | 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 | | |

専門分野・成人看護学 授業計画

| | | | |
|--|---|-----------------|---|
| 授業科目及び時間数 | 機能障害のある患者の看護 1単位 30時間 | | |
| 開講時期 | 2年次 前期 | | |
| 担当教員 | 萱場健雄 白鳥智美 | 実務経験 | 有 |
| <p><科目のねらい></p> <p>看護が働きかける対象は疾病や臓器ではなく、疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な生命の危機、あるいは生活上の障害を併せ持っている人である。本授業では、機能障害のある患者の看護を展開する上で必要な知識を学ぶことをねらいとする。</p> <p><到達目標></p> <p>機能障害のある患者の回復・健康の維持に向けた看護を展開する上で必要な知識を理解できる。</p> | | | |
| 授業計画・内容・担当教員 | | | |
| 1回目 | 1. 循環・呼吸機能障害のある患者の看護 1) 循環機能障害のある患者の看護 心不全・虚血性心疾患・不整脈 2) 呼吸機能障害のある患者の看護 肺がん・COPD | 講義・グループワーク (萱場) | |
| 2回目 | | | |
| 3回目 | | | |
| 4回目 | | | |
| 5回目 | | | |
| 6回目 | | | |
| 7回目 | 1. 脳・神経機能障害のある患者の看護 脳血管障害・脳腫瘍・髄膜炎 | 講義・グループワーク (萱場) | |
| 8回目 | | | |
| 9回目 | 1. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 肝炎・肝硬変・肝がん | 講義・グループワーク (白鳥) | |
| 10回目 | | | |
| 11回目 | 1. 消化吸収機能障害のある患者の看護 胃がん・大腸がん (選択) | 講義・グループワーク (白鳥) | |
| 12回目 | | | |
| 13回目 | 1. 内分泌機能障害のある患者の看護 甲状腺機能亢進・低下症、下垂体腫瘍 | 講義・グループワーク (白鳥) | |
| 14回目 | 1. 身体防御機能障害のある患者の看護 血液悪性疾患 | 講義・グループワーク (白鳥) | |
| 15回目 | 終了試験 | (白鳥) | |
| 評価方法 | 筆記試験 100% | | |
| 受講生に対するメッセージ | この授業は、3年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 医学書院 | | |
| 参考書 | | | |

専門分野・成人看護学 授業計画

| | | | |
|---|---|------------------------------|---|
| 授業科目及び時間数 | 経過別看護実践のプロセス 1単位 30時間 | | |
| 開講時期 | 2年次 後期 | | |
| 担当教員 | 黒川みゆき・萱場健雄 小川裕介・我妻ひと美・黒田沙織・ | 実務経験 | 有 |
| <p><科目のねらい> 本授業では、経過別看護・機能障害のある患者の看護での学びを活用し、より実践的な看護について学ぶことをねらいとする。</p> <p><到達目標> 各健康段階における看護問題の解決に向けた思考過程を養い、実践的な看護について理解する。</p> | | | |
| 授業計画・内容・担当教員 | | | |
| 1回目 | 1. ICU 1) 生命の危機的状態にある患者の病態変化を予測した重篤化の予防 2) 廃用症候群などの二次的合併症の予防及び回復のための早期リハビリテーション | 講義 (小川) | |
| 2回目 | | | |
| 3回目 | 1. 救急看護 1) 救急医療現場における病態に応じた救命技術 2) 危機状況にある患者・家族への早期介入及び支援 | 講義 (萱場) | |
| 4回目 | | | |
| 5回目 | 1. 脳卒中とリハビリテーション 1) 脳卒中患者の重篤化を予防するためのモニタリングとケア 2) 活用維持・促進のための早期リハビリテーション 3) 急性期・回復期における生活再構築のための機能回復支援 | 講義 (黒川) | |
| 6回目 | | | |
| 7回目 | | | |
| 8回目 | 1. 糖尿病看護 1) 糖尿病の概要 食事療法・運動療法について 2) インスリン療法について (自己注射体験) 3) 糖尿病とがん (血糖測定体験) | 講義・演習 (我妻) 糖尿病看護認定看護師 | |
| 9回目 | | | |
| 10回目 | | | |
| 11回目 | 1. 透析看護 1) 腎不全治療の概要 2) 透析看護に必要な技術 3) 透析患者の看護 保存期・導入期・維持期 4) 透析困難患者の看護 5) 事例検討 | 講義・グループワーク (黒田) 透析看護認定看護師 | |
| 12回目 | | | |
| 13回目 | | | |
| 14回目 | | | |
| 15回目 | 終了試験 | (黒川) | |
| 評価方法 | 筆記試験 100% (萱場 15%・黒川 15% 小川 15% 黒田 35% 我妻 20%) | | |
| 受講生に対するメッセージ | この授業は、3年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるように、積極的に授業に取り組んで欲しい。 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 医学書院 | | |
| 参考書 | | | |

専門分野・成人看護学 授業計画

| | | | |
|--|---|-------|---|
| 授業科目及び時間数 | 周術期看護 1単位 30時間 | | |
| 開講時期 | 2年次 後期 | | |
| 担当教員 | 萱場健雄 | 実務経験 | 有 |
| <p><科目のねらい> 手術は侵襲を伴う治療法である。手術後の経過により入院期間の延長や社会復帰への遅延、予後が左右される。患者・家族ともに治療に伴う不安や恐怖は大きく、看護師は全人的な患者理解に努め意思決定の支援をしている。本授業では周術期の患者に必要な看護について学ぶことをねらいとする。</p> <p><到達目標> 1. 周術期における患者の特性を理解し、手術過程に応じた看護を実施できる。</p> | | | |
| 授業計画・内容・担当教員 | | | |
| 1回目 | 1. オリエンテーション | 講義 | |
| 2回目 | 1. 術前看護 | 講義・演習 | |
| 3回目 | | | |
| 4回目 | 1. 術中看護 アセスメント | 講義・演習 | |
| 5回目 | 1. 術直後 必要な看護を考える アセスメント 術直後観察 | 講義・演習 | |
| 6回目 | | | |
| 7回目 | | | |
| 8回目 | 1. 術後ベッド作成 | 演習 | |
| 9回目 | 1. 術直後の観察 | 演習 | |
| 10回目 | | | |
| 11回目 | 1. 術後 退院に向けて指導・教育 アセスメント 指導用具等作成 | 講義・演習 | |
| 12回目 | | | |
| 13回目 | 1. 退院指導の実践・評価 | 演習 | |
| 14回目 | 1. ガウンテクニック | 演習 | |
| 15回目 | 終了試験 | | |
| 評価方法 | 筆記試験 100% | | |
| 受講生に対するメッセージ | 周術期看護は、3年次の成人・老年看護学実習Ⅰにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に取り組んで欲しい。 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 | | |
| 参考書 | | | |

専門分野・成人看護学 授業計画

| | | | |
|---|---|-------------------------|---|
| 授業科目及び時間数 | がん看護 1 単位 15 時間 | | |
| 開講時期 | 2 年次 後期 | | |
| 担当教員 | 朝日恵美・黒川みゆき | 実務経験 | 有 |
| <p><科目のねらい></p> <p>がん医療は日々進歩し、患者を中心とした個別化医療も進んでいる。患者とその家族は病態や治療についての知識を学び、治療過程や予後について理解した上で治療やケアに取り組む必要がある。本授業では、患者が治療過程を安全・安楽に過ごし、セルフケアを促進させる看護について学ぶことをねらいとする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの病態や診断・治療、がん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に捉え、根拠に基づく看護を理解できる。 2. がん医療の進歩に対応し、新しいがん看護の実践とその根拠について理解できる。 | | | |
| 授業計画・内容・担当教員 | | | |
| 1 回目 | 1. がん医療の現在と看護 | 講義（黒川） | |
| 2 回目 | 1. がん患者の看護 1) がん患者の苦痛に対するマネジメント 2) がん患者の心理的サポート 3) がんの予防と早期発見 | 講義（黒川） | |
| 3 回目 | | | |
| 4 回目 | 1. がん治療に対する看護 1) がん治療における看護の重要性 2) がん手術療法における看護 3) 放射線療法における看護 | 講義（黒川） | |
| 5 回目 | | | |
| 6 回目 | | | |
| 7 回目 | 1. がん治療に対する看護 4) 薬物療法における看護 | 講義（朝日） がん化学療法看護認定看護師 | |
| 8 回目 | 1. がん治療の場と看護 1) 外来がん看護 2) がん患者の療養支援 | 講義（黒川） | |
| 評価方法 | 筆記試験 100%（朝日 10% 黒川 90%） | | |
| 受講生に対するメッセージ | この授業は、3 年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。 | | |
| テキスト | 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 | | |
| 参考書 | | | |